

飯舘村民による現状報告会 あれから4年……
主催NPO法人エコロジー・アーキスケープ
20150329

仮設住宅での被災者の生活再建意向

暖水勝規

日本大学大学院
建築・地域共生デザイン研究室(系長研究室)
博士前期課程一年

はじめに

当該研究室としての支援活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災による福島第一原子力発電所事故発生以来、福島県飯舘村において住宅移転計画案の提案や、世帯分離等の実態把握を目的とした生活及びコミュニティ再建の意向調査や、継続的な村民支援活動を行っている。

目的

- 長期化する避難生活における課題は、未だ散見される現状において、
- 震災発生直後から避難先に至るまでの避難生活の実態把握、課題の究明
 - 避難指示解除後(平成28年3月)を目処とした際の村民の生活及びコミュニティ再建意向
- 以上2点について村民の意識の解明により明らかとする。

研究対象地概要

避難状況(平成27年3月1日現在)

飯舘村民避難者数:6,723名(3,098戸)

伊達東仮設住宅への避難者数:146名(91戸)

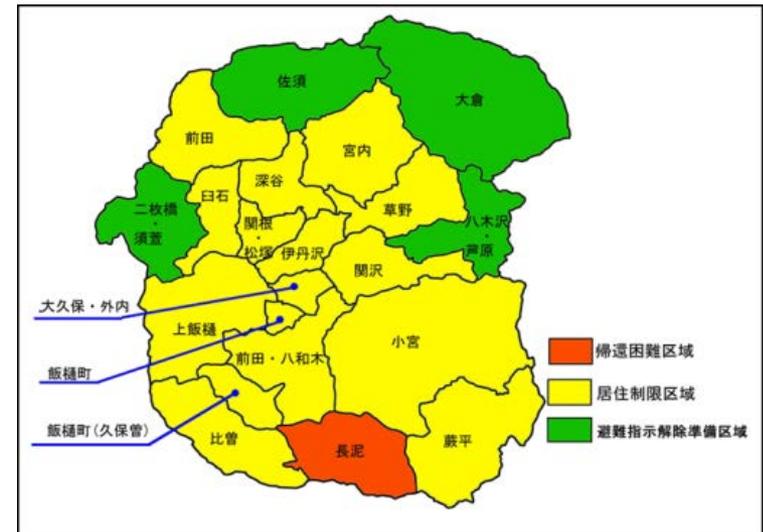


図 飯舘村避難指示区域
(※飯舘村HPより引用)

研究方法

a. 伊達東仮設住宅在住飯舘村民生活再建アンケート調査

概要: 帰村や生活再建に対する意向の調査

家族の繋がりを含む地縁的コミュニティについての意識解明

対象者: 伊達東仮設住宅の全世帯90世帯(140名)

実施期間: 2014年5月～6月

回収数: 51件(56.7%)

※本調査は、公益財団法人JKA(RING!RING!プロジェクト・東日本大震災復興支援補助)からの支援及び、文科省からの研究補助金(糸長浩司代表及び担当)によって実施しました。

b. 震災発生直後から伊達東仮設住宅入居までの避難生活の実態把握ヒアリング調査

概要: 世帯分離の実態と避難生活における苦悩及び課題の聴き取り調査

実施日: 2014年8月25日

対象者: 伊達東仮設住宅在住飯舘村民5名

★ 伊達東仮設住宅でのワークショップ 2013年

- ◆ 将来への希望、期待について
 - 除染への期待と不安の葛藤
 - 家族と一緒に暮らしたい(どこでも)
 - 帰村して家族で暮らしたい
 - 新しい土地での住宅で暮らしたい
 - 伊達方面で新天地を求めたい(みんなで)
 - 伊達方面で復興公営住宅がほしい
 - 子供が帰れる場所を作りたい
 - 二地域居住、飯舘の住宅は別荘でよい
 - 帰村、移住に関して村長との話し合いをしたい
 - 農業がしたい
 - 素直に将来の見通しを正直に示してほしい
 - 長期的な保障

◆飯舘村内の住宅・農地・森林について

(1) 住宅・宅地

- 除染の徹底 • 満足のいく金額で買い上げてほしい。
 → 復興公営住宅、仮の村・新天地での住宅再建
- 借り上げてほしい。
- 補修、継続的な管理を望む
- 土地の有効活用、ソーラーパネル等

(2) 農地

- 除染の徹底、農業をできるようにしてほしい。
 ←→ 除染せず自然に任せたい
- 水耕栽培は可能
- 買い取り希望 ←→ 先祖の土地であり、売却できない
- 利用できる人に任せたい。ソーラー等
- 国に貸す。30年以後の世代に期待。

(3) 森林

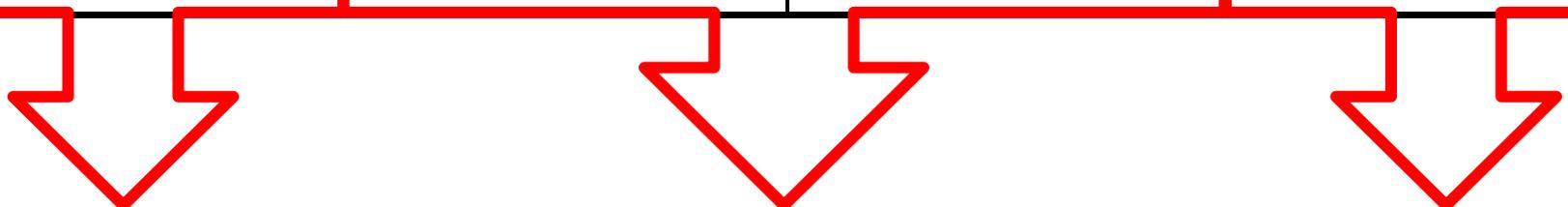
- 長期的管理、インシシ対策、
- 100年以後の木材活用への期待
- 買い取り希望
- 無理な除染は森林の土砂流出危険、放置

◆WSによる生活再建の意向調査

(2013年 第1回WS調査のまとめ)

表1 生活再建・復興に対する皆さんの不安, 期待, 思い

A.避難先での長期的な生活再建不安			
避難生活	除染	帰村	コミュニティ
いつまで避難しなくてはならないの	政府は除染と言うが、除染は進まない。人が住める村に戻るのか	年間20ミリシーベルト以下での帰村宣言が不安	若い人は外で、年寄りには村内と言っても放っておけない
私達に責任は無いのに、監獄のような生活はもうたくさん	H25年7月23日に、村が除染するというが、0.75~0.9(家の中)内にして欲しい。不安だ	帰れる村になるという話は2年間も聞かされているが、不安	行政区のコミュニティも、家族の繋がりがすバラバラ

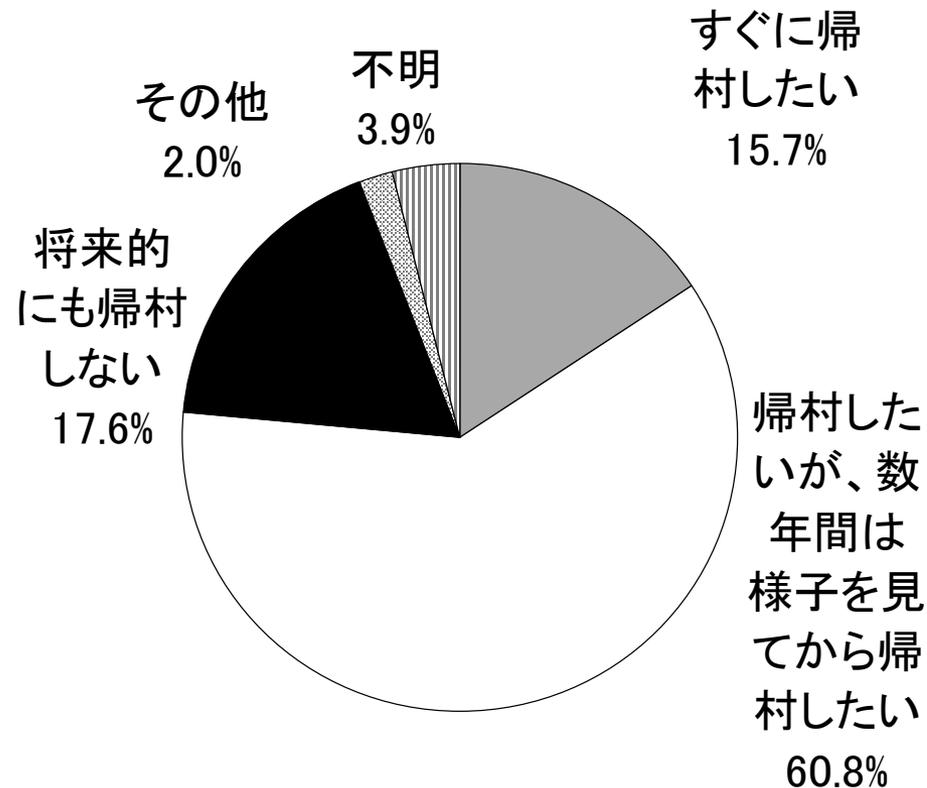


<ul style="list-style-type: none"> ・長期化する避難生活により生じる精神的不安 ・仮設住宅の劣悪な生活環境によるストレス 	<ul style="list-style-type: none"> ・除染作業への不信感 ・帰村宣言の目安の値となる放射線量への不安 ・帰村時期が明らかとならない現状に、帰村意向の高い高齢者は不安視 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と若い世代との帰村意向の違いから生じている世帯分離 ・コミュニティの分断により事故以前の生活が不可能
---	---	---

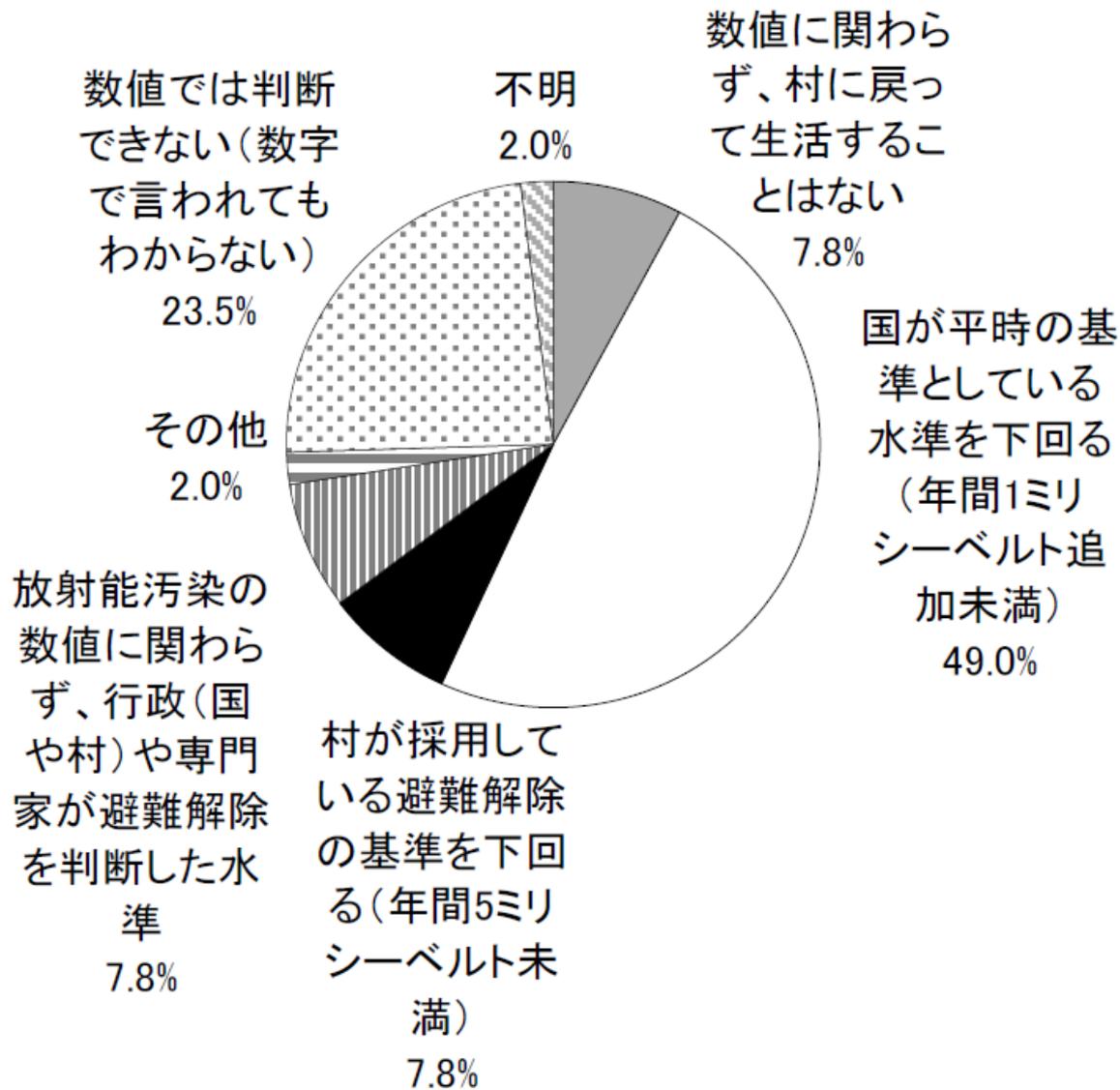
伊達東仮設住宅生活再建アンケート、2014年6月(n=51)

◆8割超が60歳以上

避難指示解除(20年以降)後の帰村判断

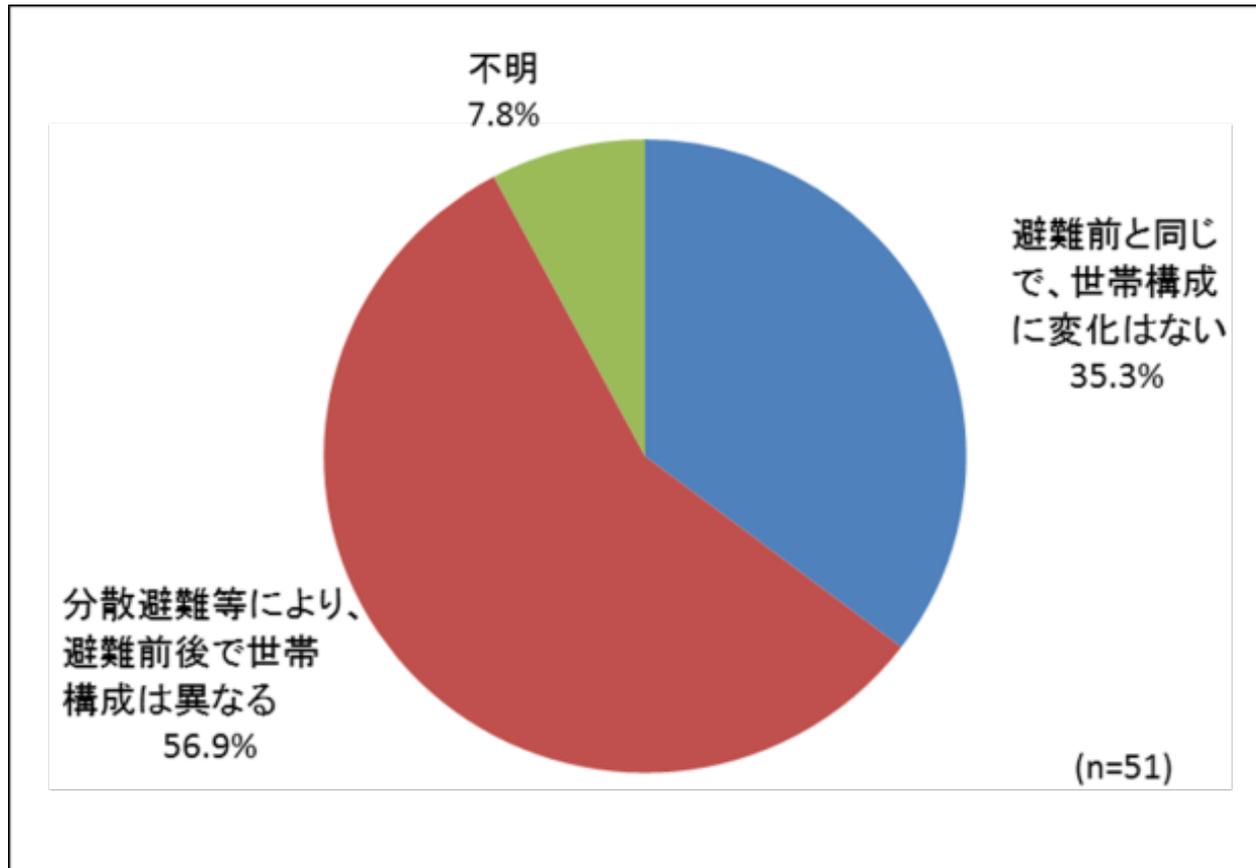


帰村判断の目安



(n=51)

世帯分離の現状及び世帯構成の希望について

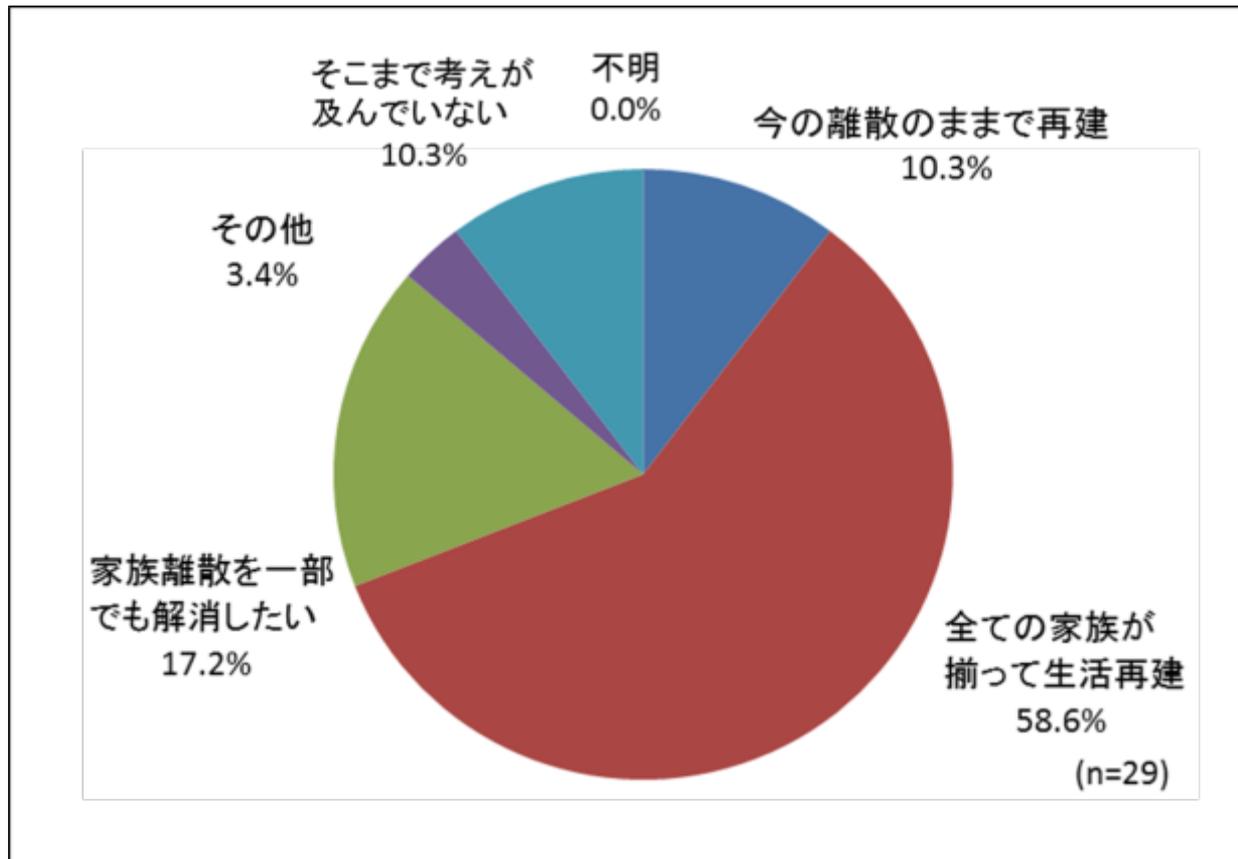


6割弱の人が分散避難等による
世帯分離が生じたと回答

- 多世代による同居が仮設住宅において困難である事
- 若い世帯が早期に福島市内等へ避難した事

生活再建の際の世帯構成希望

2016年3月の避難指示解除を目途



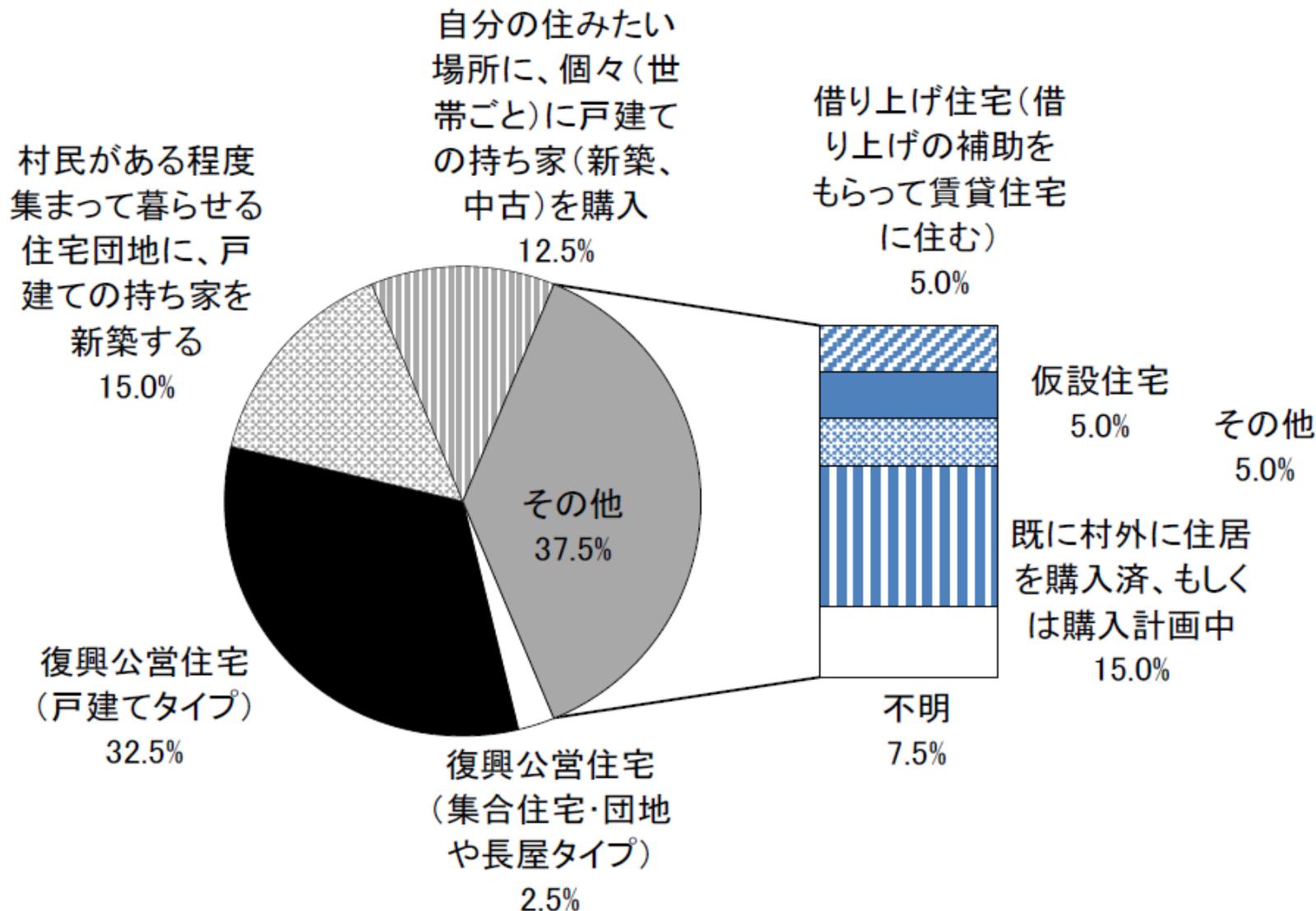
「全ての家族が揃って生活再建」
「家族離散を一部でも解消したい」
を合わせると全体の4分の3の回答

「家族離散を一部でも解消したい」
「今の離散のままで生活再建」
を合わせると4分の1を超えている

• 震災以前の家族で一緒に暮らす事
への要求が高い

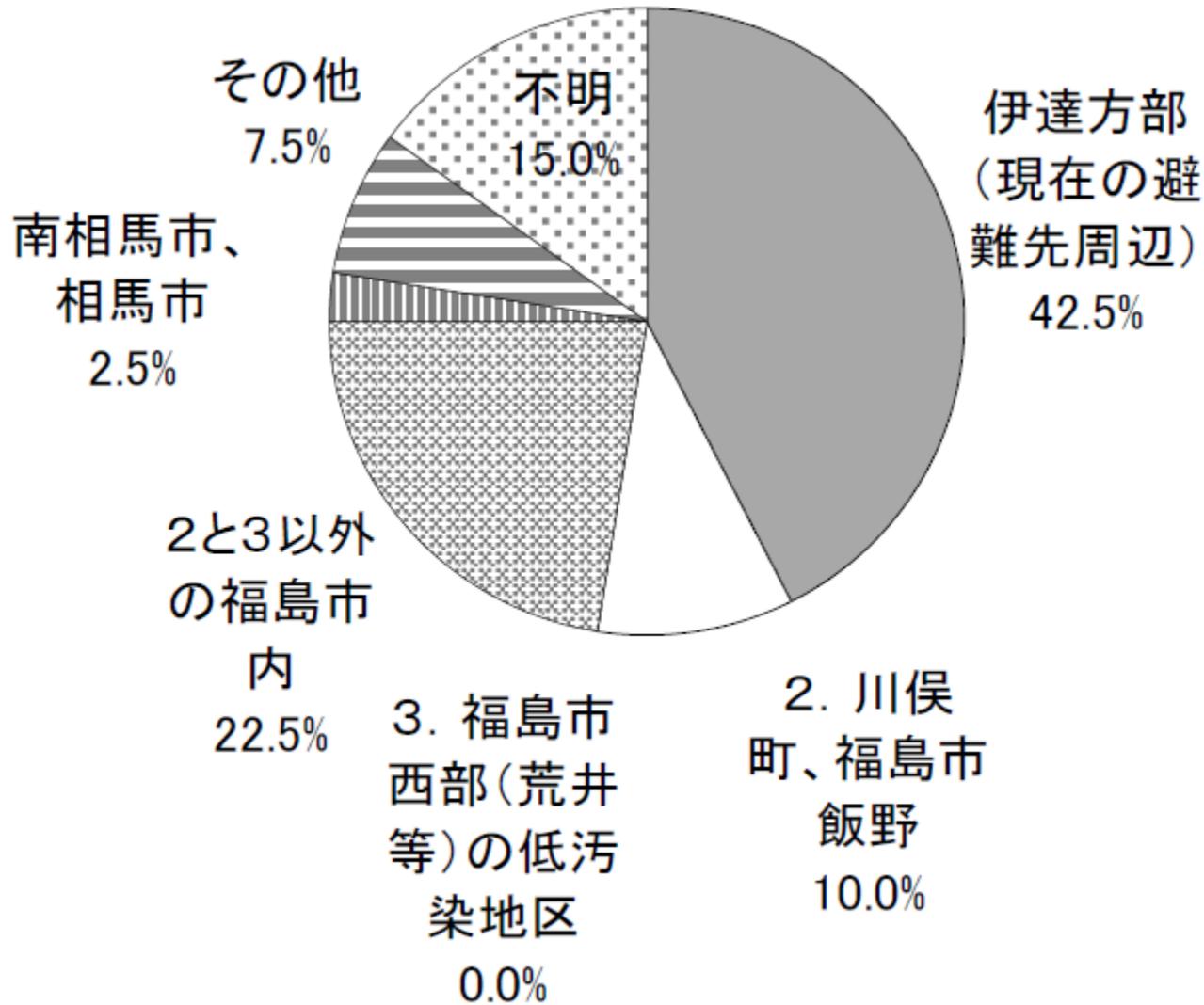
• 家族揃っての生活再建が
容易でないと考えている

生活再建での住まい方



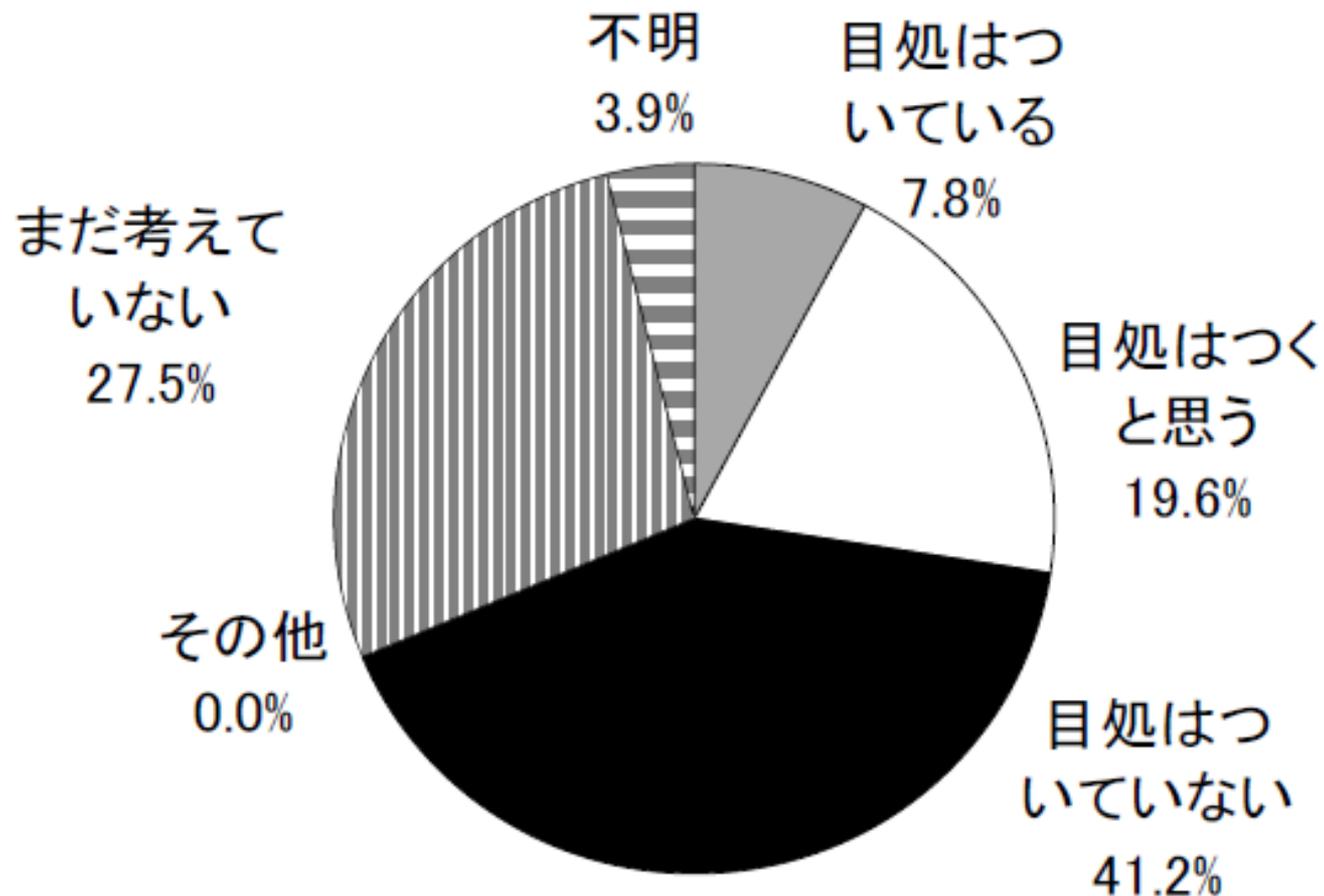
(n=40)

住みたい 場所



(n=40)

生活再建するための経済的見通し



(n=51)